## (別表第1の3)

## 評価結果概要表

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200029		
法人名 医療法人 仁明会			
事業所名	グループホーム はとり		
所在地	愛媛県今治市南宝来町3丁目4番地1		
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 20 日		

## ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

(参考項目:28)

	評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会					
所在地 松山市持田町三丁目8番15号							
	訪問調査日	平成 26 年 7 月 2 日					

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るいスタッフがおりアットホームな環境です。利用者さんの目の前で作る、管理栄養士が作 |成した献立と、利用者さんの希望を交えたおいしい食事に力を入れております。また、常勤の 看護師がおり、医療の連携に努めております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「季節を感じながら、利用者らしくゆったりと暮らしてほしい」という施設長の思いが、利用者の居室等か |ら見えるよう窓辺に花を植えたり、母体病院の食事提供ではなく各ユニットで職員が手作りの食事を提 供していることなどから伺うことができる。入浴は利用者一人ひとりにお湯を入れ変え、希望に応じて臨 機応変に対応したり、利用者の状態に応じて、デイサービスなどの特殊浴槽を使用し、安心安全に入浴 できるよう支援している。代表者や施設長は、職員の待遇を良くすることが利用者のサービスの向上に |も繋がると考えており、産休や育休、介護休暇、勤務しやすいシフトなどを職員と話し合い、ゆとりのあ る職員配置を行うなど、福利厚生も充実し長期に働いている職員も多い。また、研修を業務として位置 づけ、職員は外部研修にも参加しやすく、職員のレベルアップにも努めている。

項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	↓ 該当する項	
職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の ○ 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない		疾が困っていること、不安なこと、求 │ :をよく聴いており、信頼関係ができ │ 9,10,19)	O 2. 家放 3. 家放 4. ほと	『全ての家族と 『の2/3くらいと 『の1/3くらいと 『んどできていない
利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 7 がある (参考項目:18,38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	通いの場や 域の人々が (参考項目:2		O 2. 数E 3. たま	ff毎日のように flに1回程度 ∷に ∙んどない
8 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	。 係者とのつな	議を通して、地域住民や地元の関 ながりの拡がりや深まりがあり、事業 や応援者が増えている 4)	〇 2. 少し	トに増えている ずつ増えている 5り増えていない いない
利用者は、職員が支援することで生き生きした タ 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		き活きと働けている	<ul><li>1. ほほ</li><li>2. 職員</li><li>3. 職員</li></ul>	「全ての職員が もの2/3くらいが もの1/3くらいが しんどいない
利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい 0 る (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	職員から見て 足していると	て、利用者はサービスにおおむね満 - ・思う	<ul><li>1. ほほ</li><li>2. 利用</li><li>3. 利用</li></ul>	「全ての利用者が 目者の2/3くらいが 目者の1/3くらいが しんどいない
利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な 1 く過ごせている (参考項目:30,31)	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	職員から見る 68 おむね満足し	て、利用者の家族等はサービスにお していると思う	O 1. ほほ 2. 家放 3. 家放	「全ての家族等が 「等の2/3くらいが 「等の1/3くらいが しんどできていない
利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟 2 な支援により、安心して暮らせている	〇 1 ほぼやての利田孝が				

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

## 自己評価及び外部評価結果表

# サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が 介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を 修正することはありません。
- ※用語について
- ●家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。 (他に「家族」に限定する項目がある)
- ●運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の 役職者(経営者と同義)。
- ●職 員=「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- ●チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、 事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム はとり
(ユニット名)	2F
記入者(管理者)	
氏 名	原文香
評価完了日	平成 26 年 6 月 16 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	上 外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)		
I .	理念	に基づく運営				
1	1	<ul><li>○理念の共有と実践</li><li>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている</li></ul>	(自己評価)     ご利用者が、自分の家庭で暮らすように、住み慣れた地域で、楽しく、健やかに、自分らしく暮らせるように願って事業所の理念としている。毎月職員ミーティングを行い、管理者と職員間で理念を共有している。  (外部評価) 開設当初に代表者と施設長で話し合い2つの理念を作成している。理念を基にして、職員間で話し合い年間の行動目標を作成し、運営推進会議にも報告し、理念とともに実践し達成ができるよう努めている。また、定期的にケアが理念に沿って行われているか確認しサービスの向上に努めている。	職員間で理念等の話し合いをしているが、各ユニット の年間の行動目標の違いが少なく、毎年職員間で話し 合い見直しすることを期待したい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域のお祭りの際には、大人神輿、子供神輿ともホームを訪れてくれており、秋には、(ごうりんさん)をつきに地域の子供たちが訪れている。毎日の散歩時、御近所の方と利用者さんとあいさつを交わしている。また、近隣の高齢者の方が、毎週ボランティアでお花を活けに来て下さっている。 (外部評価) 散歩時には近隣住民と挨拶や会話を交わしたり、喫茶店に行きコーヒーを飲むなど、日頃から地域とのつきあいを大切にして支援している。地元のタオル企業に端切れをもらったり、公民館が行う文化祭に利用者が書いた習字を出展したり、バザーに参加するなど、地域住民と交流をしている。事業所は市街地の過疎化や少子化が進んでいる地域にあり、今後、公民館活動そのものがどのようになるか分からない状況にあるが、事業所としてできることを考えながら公民館活動にも協力できるよう努めている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 介護実習生やボランティアを受け入れ、介護人材育成に わずかながら協力している。			

	т —	しょこり		<u> </u>
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(自己評価) 運営推進会議を2カ月に一度開催して、ホームのご利用者や職員の事などを報告し、困りごとの相談、利用者の地域参加などの事を話しあっている。平成23年度からは、介護実習生も運営推進会議に参加している。	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、自治会長、地域 包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催し ている。会議へ近隣住民も毎回参加してくれたり、実習中 の短大生が参加することもあり、貴重な学びの場に繋がっ ている。会議では事業所の状況や活動報告を行うほか、地 域の福祉課題や事業所の役割などを話し合い、地域行事の 情報の共有や意見交換をしている。また、会議は防火訓練 等に近隣住民の協力を得られる機会にもなっている。	
		<ul><li>○市町村との連携</li><li>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、</li></ul>	(自己評価) わからない事や、疑問に思う事、また、困難事例などを 市役所高齢介護課に相談しながら運営を行っている。	
5	4	事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子などの報告を受けている。利用者へ経済的虐待が疑われるケースが発生し、地域包括支援センターの支援を得て、成年後見制度の利用を開始することができた。地域包括支援センターからの相談を受けることもあり、道路で倒れていた徘徊高齢者を保護した経験もあるなど、相互の協力関係を築いている。	
		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ	(自己評価) 身体拘束について、研修会などで学習し、職員ミーティング時に、具体的な禁止対象行為を話し、何が身体拘束にあたるかを学んでいる。	
6	5	る禁止の対象となる具体的な行為」を正し	(外部評価) 「拘束とは何か」を職員間で話し合ったり、外部研修に参加したり、身体拘束等の勉強会を繰り返し開催し、どのような行為が禁止されているか職員は理解して、身体拘束をしないケアをしている。また、言葉による拘束にも気を配り、施設長等が気になる言動があった場合には、その都度注意して理解できるよう指導している。	

愛	发県	はとり		平成26年8月25日
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業 所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する外部研修を職員が毎年受講し、職員ミー ティングで具体的な禁止対象行為を共に学んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それら を活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業や日常生活自立支援事業の研修に参加し、 学ぶ機会を持っている。実際に成年後見制度を利用してい る利用者さんもおり、ミーティング後の勉強会の議題とし て学んでいる。また、家族の成年後見に対する相談を受 け、市役所の相談窓口を紹介して利用を推進している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご本人や、ご家族とよく話し合う機会を持ち、納得され てから契約を締結している。	
100	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員並びに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議やご家族の訪問時に、ご家族の意見を聞き、運営や計画に反映している。各階ホームの入り口に御意見箱を設置して、ご家族や訪問者の意見を聞いている。  (外部評価) 家族会があるが、開催時には家族から意見はほとんどでない。長期間利用している家族からは、施設長や計画作成担当者から訪問時等に話しかけ意見等を聞いており、話しやすい関係を築いている。家族から「散歩など外出して欲しい。寝たきりにならないようにして欲しい。」などの要望が出され、反映して利用者の散歩や体操に力を入れて支援している。	

自己	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(自己評価) 毎月1回のミーティング時と各種会の時に、職員の意見 を聞き運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(外部評価) 施設長は毎月の給与明細を職員に手渡して話し合う機会を作っているほか、年1~2回個別面談を行い職員は要望を伝えることができる。職員は業務内容の検討や役割分担など施設長に伝えやすく、施設長は職員が直面してご告意	
			の解決を図り、職員の働きやすい環境を整備し、産休や育休、介護休暇、勤務しやすいシフトなどを職員と話し合いゆとりのある職員配置を行うなど、処遇を改善することがサービスの向上に繋がると考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、各職員が向上心を持ち、安心して働くことができるよう、労働条件、職場環境、有給休暇取得、育児休暇、介護休暇等、職場環境と条件の整備を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の研修計画を作成して、個々の職員の能力水準に合わせて必要な研修を受けることができるように援助を行っている。特に資格取得研修に力を入れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)     愛媛県地域密着型サービス協会に所属して、各種研修や相互研修事業に職員を参加させ、同業者と職員が交流する機会を作り、サービス協会の活動を通じて、地域全体のサービスの質を向上させるべく、日々努力をしている。また、今春からは今治市グループホーム交流会に職員を参加させネットワーク作りに励んでいる。	
I	I .安	心と信頼に向けた関係づくりと支援		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するため の関係づくりに努めている	(自己評価)     入居前や入居直後にご本人、ご家族と話し合い、アセスメントを行って、ご本人やご家族の状況を理解して希望をお聞きし計画に反映している。入居も、ご本人とゆっくりお話しができる環境を作り、信頼関係の構築に努力している。	

<u> </u>	<u>又不</u>	<u> はとり                                   </u>		平成26年8月25日
自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) サービス利用前に、本人家族と面接を行い、希望や要望 に沿えるよう最大限の努力を行っている。	
18		<ul><li>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている</li></ul>	(自己評価)         ご本人の、できることできないことを見極め、できることは手伝っていただき、できないことはできるように援助を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者やご家族の無理のない範囲で、協力をお願いし本人と家族の絆を断ち切る事がないよう本人が孤立しないように関係を構築している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価)     ご家族、友人、ご近所の面会を歓迎して、来所者をおもてなしし、利用者との良い関係が続く様に援助を行っている。また、なじみの関係が続く様に援助を行っている。また、なじみの美容院や理容院へ毛染めやパーマに行くことを支援し、自宅に帰りたい希望の方には月に何度か、今まで住んでいた自宅に職員とともに出かけられるように援助している。 (外部評価)     職員は家族や友人などの訪問を快く受け入れ、訪問しやすいよう努めており、調査当日も複数の面会者でにぎわっていた。入所して間もない落ち着けない利用者には、週1回程度自宅に出かけ、冷蔵庫を整理したり気になることをしてもらったりするなど、安心して生活を送れるよう支援している。また、長年利用している利用者には、利用者同士の新たな馴染みの関係が築かれている。	

<u> </u>	示示	はとり		<u> </u>
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え 合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の状況や個性を把握して、職員がさりげなく利用者に関わり必要な支援を行う事で、利用者同士が仲の良い隣近所のように自然に支えあい、円滑に暮らしていけるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) ホームを退所した後も、必要に応じて相談援助を行って おり、長期入院後に再入所した方もおられる。	
	I. そ	の人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ	メント	
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価) 利用者一人一人の生き方を尊重しながら、ご本人やご家族と頻回にコミュニケーションをとり意向の把握につとめている。  (外部評価) 職員は利用者との会話を大切にしており、日々の会話の中から少しずつ思いを把握し、意向に沿えるよう支援している。思いを表すことが苦手な利用者には、職員が利用者に寄り添い声かけを多くして、思いをくみ取るよう努めている。また、職員が利用者のケアに行き詰った場合には、センター方式の24時間生活変化シートなどを使用し記録や分析して利用者の理解に努め、より良いサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価)     入居時に、ご本人、ご家族、担当の介護支援専門員さんから情報を収集し、入所後も良くコミュニケーションをとって、センター方式を活用して生活歴その他を把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) センター方式のアセスメントシートを活用して、職員全 員で暮らしの現状を把握できるよう努力している。	

<u> </u>	友宗	はとり		<u> </u>
自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員間で気付きや課題をケアカンファレンスで検討し、本人によりよい介護計画を立てることができるよう努力している。また、状態の変化に応じて、介護計画の見直しができるように、モニタリングやアセスメントを行い、ご本人やご家族の意見、希望をお聞きして介護計画に反映している。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、計画作成担当者が初回の介護計画を作成し、家族等に説明して同意を得ている。家族を交えたサービス担当者会議が行えるよう、参加を呼びかけている。利用者毎の担当制を取り、月1回ケアカンファレンスを行い、きちんと整理された記録を基にして職員全員でサービス内容の検討を行い、利用者の現状に適した介護計画になるよう努めている。3か月に1回介護計画の見直しをしている。また、施設長と計画作成担当者は、より利用者一人ひとりが思い浮かべられ、暮らしの様子が分かりやすい記録に変更することを考えており、今年度の目標に掲げている。	利用者のことが分かりやすい記録となるよう、施設長等を交えて職員全員で話し合いを重ねることを期待したい。また、より充実した記録を残すことにより、利用者の理解を深め、サービスに活かせることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 個別記録を作成し、日々の様子や計画の実践課程、結果、評価を行い、また、日々の申し送りなどからの情報を活かしカンファレンスを随時行い計画の見直しができる体制をとっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人のニーズに合わせて、個別で柔軟な対応を心がけ ている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) ご本人を支えている、ご家族、ご近所、隣組、友人、老 人会などの地域資源を把握して、協力していただける部分 は、協力をお願いしている。	

自己	外部評価	項目	実践状況	***
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)     ご本人、ご家族にかかりつけ医を確認して、希望の医療機関を受診していただいている。また、協力医療機関とも密に連携をとり、利用者が適切な医療を受け健康が保てるように支援している。他科受診で、ご家族の健康不良等により家族支援が受けられない場合には職員が同行することもある。     (外部評価)     月2回の往診や緊急時にも迅速に対応できるため、ほとんどの利用者は母体病院をかかりつけ医としている。専門医等は、家族の協力を得て受診しており、家族が同行できない場合は職員が受診介助もする場合もある。また、月1回歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームには常勤の看護職員がおり、毎日の申し送り時に ご本人の状態を報告、相談を行い適切な受診や看護が受け られるように支援している。また、かかりつけ医が協力医 療機関の場合にはほぼ毎日主治医に、入居者の健康状態の 申し送りを行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した際には、安心して治療ができるよう に、病院関係者と情報交換を行い、入院中もご家族の相談 を受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)     入所時より、看取り介護の説明を行い、本人の状態に合わせて、重度や週末期についての相談を受けている。  (外部評価) 「看取りに関する指針」を作成している。利用者の亡くなる前日まで事業所で対応した経験はあるが、医療行為が必要になった時点で入院してもらった。施設長等は、「利用者の住み慣れた事業所で最期まで過ごしてほしい」という希望は持っているが、職員の精神的負担を考えると事業所で看取りをすることが100%良いとは考えていない。まず利用者が苦しまないことを優先し、家族とよく話し合い、医療行為の必要のない場合は看取りを行うことを考えている。また、事業所には家族が宿泊できるようになっている。	

22.7/	<u> </u>	はてか	·	平成20年8月25日
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全て の職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や、事故発生時に備えて、救急マニュアルを作成し、内部では職員ミーティングで急変時の研修を行い、毎年、職員数名ずつがAED、心肺蘇生の研修に参加している。	
		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	(自己評価) 防火訓練、避難訓練を年2回行い、緊急災害に備えて訓練を行っている。地震水害マニュアルはいまだホーム独自の物となっていないため、引き続き修正予定である。  (外部評価) 広くゆるやかな非常階段が2か所あり、災害発生時には事業所のビル内に避難することを決めている。事業所を地域住民の避難場所として受け入れを表明しており、1週間分の食料等の備蓄を用意している。備蓄の食料は期限内に家族に試食してもらい、飲むゼリーなどの食べやすいものを選んでいる。また、防災マニュアルは作成中である。	
	14	<ul><li>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</li><li>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</li></ul>	(自己評価) 一人一人のパーソナリティに合わせて、本人のプライドを傷つけないように、言葉かけや対応を行っている。  (外部評価) 職員は言葉づかいに気をつけ、きちんと利用者と向き合い、尊重して納得してもらうよう心がけて話し合いをしている。また、施設長は利用者をごまかしたりしないことが大切だと考え、入居拒否のあった利用者と何日もかけて話し合い、納得していただいたことがある。また、帰宅願望のある利用者には、利用者の気持ちを大切に考えて、職員が付き添って自宅に帰ることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 時間をかけてゆっくりと、本人の希望や、意思を確認して本人の気持ちに添って物事が運べるように援助している。	高權圓社会短礼协議会 郭馮爾本詞

<u> 22.7</u> 2	久不	しょこり		平成20年8月23日
自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している	(自己評価) できるだけ、ご本人の時間で行動していただく様に支援している。様々な場面で本人の意思確認を行い、本人の希望により買い物や散歩、毛染めや、パーマ等に出かけ、ご自分の生活をしていただけるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができ るように支援している	(自己評価) 洋服や、アクセサリー、ヘアスタイル等本人がその人ら しいおしゃれを楽しめるように、支援している。ご本人希 望により美容室へ出かけて整髪したり施設に理容師を呼ん で散髪をしたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  献立を立てる際、利用者の好物を聞き献立に盛り込んだり行事食等を取り入れ、食事の時間が楽しみになるように工夫している。調理ができる方はほとんどいないが、下ごしらえや食器の用意、テーブルのセッティングなど職員とともに行っている。  (外部評価) 施設長は、利用者の食事の占める意義の大きさを大切に考え、利用者の希望を聞きながら管理栄養士が献立を作成し、各ユニットで職員が毎食手作りの食事を提供している。食事を手作りすることにより、調理の音や匂いなどから五感を刺激して食への期待感を膨らませてもらい、出された食事から季節を感じてほしいと考えている。利用者の重度化に伴い、特別食が必要な利用者が増えているが、食事の形状をできる限り保ち、味が混ざらないよう工夫して	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	調理している。 (自己評価) 管理栄養士の作成するメニューで栄養バランスのとれた 食事を提供している。週に何度か利用者の希望のメニュー が提供できるようにしており、水分補給には利用者の状態 に合わせて随時水分補給ゼリーを提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、本人のできる状態に合わせて、自力で口腔ケアを行える方は見守りを行い、義歯の洗浄や仕上げ磨きは職員が管理している。また、月に一度歯科医の往診があり、希望者は管理指導を受けて、口腔内の清潔が保持できトラブルの起こらないように支援している。	

自己	外部評価	項目	実践状況	<b>次のステップに向けて期待したい内容</b> (外部評価のみ)
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ	(自己評価) 毎日排泄チェックを行い、排泄状態に合わせてトイレ誘導を行い、介護度が進んでもできるだけトイレで排泄できるように支援を行っている。  (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、しぐさ等で判	
		た文援を行っている	断してさりげなく誘導し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。要介護5の利用者にも、排便はトイレを使用し気持ち良く排泄できるよう努めている。 (自己評価)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	利用者ごとに排便チェックを行い、排便確認を行って、 その人独自の排便パターンでスムーズな排便ができるよう、食事や飲み物、おやつなどで繊維の多いものなどを工 夫し援助を行っている。	
			(自己評価) 入浴希望がある方は毎日入浴ができるように、入浴体制	Annual and a second a second and a second and a second and a second and a second an
		○入浴を楽しむことができる支援	をとっている。重介護を要する利用者が増加したが、利用 者の状態に合わせて、一般浴・リフト浴・特殊浴槽で対応 している。	
				The state of the s
45	17	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日	(外部評価) 利用者毎に湯を入れ替え、週3回のペースで気持ち良く入	enter and the second se
		や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じ た入浴の支援をしている	浴できるよう努めている。利用者の希望に応じて、毎日入 浴することもできる。利用者の身体能力に応じて、建物の	
			1階にあるデイサービスや隣接する母体病院の特殊浴槽を使用して、安心安全に入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、職員が交代したり声かけや入浴時間を変更するなどの工夫をしている。	
			(自己評価)	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく	決められた時間で利用者を縛ることなく、自分の好きな時間に休息し、入眠できるような支援を行っている。	***************************************
		眠れるよう支援している		***************************************

<u> 22.7/</u>	<u> </u>	はとり		平成26年8月25日
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服 薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 常勤の看護師がおり、服薬管理、服薬指導、服薬支援を 行い症状の変化の把握を行っている。病院薬剤師と密接に 連携を行い、利用者の状態に合わせた薬剤形態にして対応 している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている	(自己評価) 利用者のできることを見極めて、それぞれに役割を持っていただき、買い物お花のお世話、テーブル拭き、新聞の読み聞かせ、書道の指導等を自主的に行っていただいている。嗜好品や個人の楽しみは、個人に合わせて行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外 に出かけられるよう支援に努めている。ま た、普段は行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の人々と協力 しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日散歩を行っている。お出かけ希望の時には、車で一緒に買い物に出かけたり、近隣の公園やスーパーに買い物に出かけたりしている。  (外部評価) 利用者の重度化に伴い、以前に比べ遠くへ出かけにくくなってきたが、毎日の散歩のほか、今治駅やタオル美術館、市民の森、仙遊寺などへドライブする機会が多い。利用者の希望に応じて、買い物や理美容室に出かけたり、吹上神社や祇園さんの夏祭りに浴衣を着て参加するなど、個別に外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを 理解しており、一人ひとりの希望や力に応 じて、お金を所持したり使えるように支援 している	(自己評価) 本人に管理能力のある方は、本人が管理している。金銭 管理が難しい方でも、本人家族の強い希望があれば、小遣 い程度を自分で所持され、買い物や、理美容代に使われて いる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をした り、手紙のやり取りができるように支援を している	(自己評価) 希望時にご家族に電話をかけることができるように支援 している。携帯電話を持っている利用者は自分の好きな時 に好きな方へ連絡できており、携帯の使用方法がわからな い時には職員が援助している。	

	外部	1&C9		<b>一                                    </b>
評価	評価	項目	実践状況	(外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって 不快や混乱をまねくような刺激(音、光、 色、広さ、温度など)がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室も、共用スペースも、季節の花を飾ったり壁面に季節の飾り付けをしたりして居心地良く、また食事の時には軽音楽をながし居心地の良いように配慮している。  (外部評価) オープンキッチンとリビングを取り囲むように居室が配置され、共用空間には花や野菜を職員が当番で飾るなど、利用者が季節感を感じられる和やかな雰囲気となっている。また、七夕の壁飾りや折り紙で作った紫陽花などが飾られ、利用者に季節感を感じられるよう工夫している。目の不自由な利用者にも触れるものや香りのいいものなどを楽しんでもらえるよう工夫している。	
53		<ul><li>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</li><li>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</li></ul>	(自己評価) なじみの人たちがゆっくり話せるように、共用空間にソファを置きくつろげるようにしている。一人になりたいときにはフロアーに一つ畳の間を用意し、ご家族と他の方に聞かれたくない相談がある時には、相談室も用意している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族 と相談しながら、使い慣れたものや好みの ものを活かして、本人が居心地よく過ごせ るような工夫をしている	(自己評価) 居室は、利用者の好みに応じた飾りもの、使い慣れた家具、人形などを持ち込み、本人が自宅と変わらない生活ができるように支援している。  (外部評価) 居室はベッドとタンスが備え付けられている。居室には使いなれた馴染みの家具を持ち込んでもらい、利用者に合わせたレイアウトで居心地の良い空間づくりをしている。利用者自身で作った作品や家族の写真など飾っている利用者もいる。また、衣類は季節ごとに家族に協力してもらい入れ替えをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工夫し ている	(自己評価)     一人一人が安全に暮らせるように、わかりやすく使いやすいように、エレベーターのボタン、トイレの洗浄ボタンをユニバーサルデザインにしている。閉め忘れが多い手洗いは自動物を使用している。	

## (別表第1の3)

## 評価結果概要表

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200029	
法人名	医療法人 仁明会	
事業所名	グループホーム はとり	
所在地 愛媛県今治市南宝来町3丁目4番地1		
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 16 日	

## ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

(参考項目:28)

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会			
所在地	松山市持田町三丁目8番15号			
訪問調査日	平成 26 年 7 月 2 日			

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るいスタッフがおりアットホームな環境です。利用者さんの目の前で作る、管理栄養士が作 |成した献立と、利用者さんの希望を交えたおいしい食事に力を入れております。また、常勤の 看護師がおり、医療の連携に努めております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「季節を感じながら、利用者らしくゆったりと暮らしてほしい」という施設長の思いが、利用者の居室等か |ら見えるよう窓辺に花を植えたり、母体病院の食事提供ではなく各ユニットで職員が手作りの食事を提 供していることなどから伺うことができる。入浴は利用者一人ひとりにお湯を入れ変え、希望に応じて臨 機応変に対応したり、利用者の状態に応じて、デイサービスなどの特殊浴槽を使用し、安心安全に入浴 できるよう支援している。代表者や施設長は、職員の待遇を良くすることが利用者のサービスの向上に |も繋がると考えており、産休や育休、介護休暇、勤務しやすいシフトなどを職員と話し合い、ゆとりのあ ┃る職員配置を行うなど、福利厚生も充実し長期に働いている職員も多い。また、研修を業務として位置 づけ、職員は外部研修にも参加しやすく、職員のレベルアップにも努めている。

項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目にO印
職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の O 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	_ 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	O 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	— 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 64 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 〇 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
8 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	正営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 〇 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
利用者は、職員が支援することで生き生きした 9 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 〇 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	— 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 - 67 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な 1 く過ごせている (参考項目:30,31)	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	— 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお - 68 おむね満足していると思う	○ 1 ほぼ仝ての宏族生が
利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟 2 な支援により、安心して暮らせている	〇 1 ほぼやての利田老が		

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

## 自己評価及び外部評価結果表

# サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が 介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を 修正することはありません。

#### ※用語について

- ●家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。 (他に「家族」に限定する項目がある)
- ●運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の 役職者(経営者と同義)。
- ●職 員=「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- ●チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、 事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム はとり
(ユニット名)	3F
記入者(管理者)	
氏 名	原 文香
評価完了日	平成 26 年 6 月 16 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	上 外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)			
I .	理念	里念に基づく運営					
1	1	<ul><li>○理念の共有と実践</li><li>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている</li></ul>	(自己評価)     ご利用者が、自分の家庭で暮らすように、住み慣れた地域で、楽しく、健やかに、自分らしく暮らせるように願って事業所の理念としている。毎月職員ミーティングを行い、管理者と職員間で理念を共有している。  (外部評価) 開設当初に代表者と施設長で話し合い2つの理念を作成している。理念を基にして、職員間で話し合い年間の行動目標を作成し、運営推進会議にも報告し、理念とともに実践し達成ができるよう努めている。また、定期的にケアが理念に沿って行われているか確認しサービスの向上に努めている。	職員間で理念等の話し合いをしているが、各ユニット の年間の行動目標の違いが少なく、毎年職員間で話し 合い見直しすることを期待したい。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域のお祭りの際には、大人神輿、子供神輿ともホームを訪れてくれており、秋には、(ごうりんさん)をつきに地域の子供たちが訪れている。毎日の散歩時、御近所の方と利用者さんとあいさつを交わしている。また、近隣の高齢者の方が、毎週ボランティアでお花を活けに来て下さっている。 (外部評価) 散歩時には近隣住民と挨拶や会話を交わしたり、喫茶店に行きコーヒーを飲むなど、日頃から地域とのつきあいを大切にして支援している。地元のタオル企業に端切れをもらったり、公民館が行う文化祭に利用者が書いた習字を出展したり、バザーに参加するなど、地域住民と交流をしている。事業所は市街地の過疎化や少子化が進んでいる地域にあり、今後、公民館活動そのものがどのようになるか分からない状況にあるが、事業所としてできることを考えながら公民館活動にも協力できるよう努めている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 介護実習生やボランティアを受け入れ、介護人材育成に わずかながら協力している。				

	т —	1469		平成20年8月25日
自己 評価	外部 評価	項  目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を2カ月に一度開催して、ホームのご利用者や職員の事などを報告し、困りごとの相談、利用者の地域参加などの事を話しあっている。平成23年度からは、介護実習生も運営推進会議に参加している。  (外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催している。会議へ近隣住民も毎回参加してくれたり、実習中	
			の短大生が参加することもあり、貴重な学びの場に繋がっている。会議では事業所の状況や活動報告を行うほか、地域の福祉課題や事業所の役割などを話し合い、地域行事の情報の共有や意見交換をしている。また、会議は防火訓練等に近隣住民の協力を得られる機会にもなっている。	
			(自己評価) わからない事や、疑問に思う事、また、困難事例などを 市役所高齢介護課に相談しながら運営を行っている。	
		<ul><li>○市町村との連携</li><li>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、</li></ul>	(外部評価)	
5	4	事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子などの報告を受けている。利用者へ経済的虐待が疑われるケースが発生し、地域包括支援センターの支援を得て、成年後見制度の利用を開始することができた。地域包括支援センターからの相談を受けることもあり、道路で倒れていた徘徊高齢者を保護した経験もあるなど、相互の協力関係を築いている。	
			(自己評価) 身体拘束について、研修会などで学習し、職員ミーティング時に、具体的な禁止対象行為を話し、何が身体拘束に	***************************************
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	あたるかを学んでいる。  (外部評価) 「拘束とは何か」を職員間で話し合ったり、外部研修に参加したり、身体拘束等の勉強会を繰り返し開催し、どのような行為が禁止されているか職員は理解して、身体拘束をしないケアをしている。また、言葉による拘束にも気を配り、施設長等が気になる言動があった場合には、その都度注意して理解できるよう指導している。	

愛!	炭県	まとり 平成26年8		
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業 所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する外部研修を職員が毎年受講し、職員ミー ティングで具体的な禁止対象行為を共に学んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それら を活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業や日常生活自立支援事業の研修に参加し、 学ぶ機会を持っている。実際に成年後見制度を利用してい る利用者さんもおり、ミーティング後の勉強会の議題とし て学んでいる。また、家族の成年後見に対する相談を受 け、市役所の相談窓口を紹介して利用を推進している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご本人や、ご家族とよく話し合う機会を持ち、納得されてから契約を締結している。	
100	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員並びに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議やご家族の訪問時に、ご家族の意見を聞き、運営や計画に反映している。各階ホームの入り口に御意見箱を設置して、ご家族や訪問者の意見を聞いている。  (外部評価) 家族会があるが、開催時には家族から意見はほとんどでない。長期間利用している家族からは、施設長や計画作成担当者から訪問時等に話しかけ意見等を聞いており、話しやすい関係を築いている。家族から「散歩など外出して欲しい。寝たきりにならないようにして欲しい。」などの要望が出され、反映して利用者の散歩や体操に力を入れて支援している。	

自己	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(自己評価) 毎月1回のミーティング時と各種会の時に、職員の意見 を聞き運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(外部評価) 施設長は毎月の給与明細を職員に手渡して話し合う機会を作っているほか、年1~2回個別面談を行い職員は要望を伝えることができる。職員は業務内容の検討や役割分担など施設長に伝えやすく、施設長は職員が直面してごは思索の解されて関し、際はないできない環境を専門し、充体を表	
			の解決を図り、職員の働きやすい環境を整備し、産休や育休、介護休暇、勤務しやすいシフトなどを職員と話し合いゆとりのある職員配置を行うなど、処遇を改善することがサービスの向上に繋がると考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 代表者は、各職員が向上心を持ち、安心して働くことができるよう、労働条件、職場環境、有給休暇取得、育児休暇、介護休暇等、職場環境と条件の整備を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の研修計画を作成して、個々の職員の能力水準に合わせて必要な研修を受けることができるように援助を行っている。特に資格取得研修に力を入れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)     愛媛県地域密着型サービス協会に所属して、各種研修や相互研修事業に職員を参加させ、同業者と職員が交流する機会を作り、サービス協会の活動を通じて、地域全体のサービスの質を向上させるべく、日々努力をしている。また、今春からは今治市グループホーム交流会に職員を参加させネットワーク作りに励んでいる。	
I	I .安	心と信頼に向けた関係づくりと支援		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するため の関係づくりに努めている	(自己評価)     入居前や入居直後にご本人、ご家族と話し合い、アセスメントを行って、ご本人やご家族の状況を理解して希望をお聞きし計画に反映している。入居も、ご本人とゆっくりお話しができる環境を作り、信頼関係の構築に努力している。	

<u> </u>	<u> </u>	はとり		平成26年8月25日
自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) サービス利用前に、本人家族と面接を行い、希望や要望 に沿えるよう最大限の努力を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者やご家族の無理のない範囲で、協力をお願いし本 人と家族の絆を断ち切る事がないよう本人が孤立しないよ うに関係を構築している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価)     ご家族、友人、ご近所の面会を歓迎して、来所者をおもてなしし、利用者との良い関係が続く様に援助を行っている。また、なじみの関係が続く様に援助を行っている。また、なじみの美容院や理容院へ毛染めやパーマに行くことを支援し、自宅に帰りたい希望の方には月に何度か、今まで住んでいた自宅に職員とともに出かけられるように援助している。 (外部評価)     職員は家族や友人などの訪問を快く受け入れ、訪問しやすいよう努めており、調査当日も複数の面会者でにぎわっていた。入所して間もない落ち着けない利用者には、週1回程度自宅に出かけ、冷蔵庫を整理したり気になることを援している。また、長年利用している利用者には、利用者同士の新たな馴染みの関係が築かれている。	

<b>乏</b> 別	5 木	はとり		平成26年8月25日
自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え 合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の状況や個性を把握して、職員が さりげなく利用者に関わり必要な支援を行う事で、利用者 同士が仲の良い隣近所のように自然に支えあい、円滑に暮 らしていけるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応 じて本人・家族の経過をフォローし、相談 や支援に努めている	(自己評価) ホームを退所した後も、必要に応じて相談援助を行って おり、長期入院後に再入所した方もおられる。	
1	I. そ	・の人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ	メント	LAIV.
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	(自己評価) 利用者一人一人の生き方を尊重しながら、ご本人やご家族と頻回にコミュニケーションをとり意向の把握につとめている。  (外部評価) 職員は利用者との会話を大切にしており、日々の会話の中から少しずつ思いを把握し、意向に沿えるよう支援している。思いを表すことが苦手な利用者には、職員が利用者に寄り添い声かけを多くして、思いをくみ取るよう努めている。また、職員が利用者のケアに行き詰った場合には、センター方式の24時間生活変化シートなどを使用し記録や分析して利用者の理解に努め、より良いサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている	(自己評価)	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) センター方式のアセスメントシートを活用して、職員全 員で暮らしの現状を把握できるよう努力している。	

<u> </u>	<u> </u>	はとり		平成26年8月25日
自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員間で気付きや課題をケアカンファレンスで検討し、本人によりよい介護計画を立てることができるよう努力している。また、状態の変化に応じて、介護計画の見直しができるように、モニタリングやアセスメントを行い、ご本人やご家族の意見、希望をお聞きして介護計画に反映している。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、計画作成担当者が初回の介護計画を作成し、家族等に説明して同意を得ている。家族を交えたサービス担当者会議が行えるよう、参加を呼びかけている。利用者毎の担当制を取り、月1回ケアカンファレンスを行い、きちんと整理された記録を基にし適した介護計画になるよう努めている。3か月に1回介護計画の見直しをしている。また、施設長と計画作成担当者は、より利用者一人ひとりが思い浮かべられ、暮らしの様子が分かりやすい記録に変更することを考えており、今年度の目標に掲げている。	利用者のことが分かりやすい記録となるよう、施設長等を交えて職員全員で話し合いを重ねることを期待したい。また、より充実した記録を残すことにより、利用者の理解を深め、サービスに活かせることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 個別記録を作成し、日々の様子や計画の実践課程、結果、評価を行い、また、日々の申し送りなどからの情報を活かしカンファレンスを随時行い計画の見直しができる体制をとっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人のニーズに合わせて、個別で柔軟な対応を心がけ ている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) ご本人を支えている、ご家族、ご近所、隣組、友人、老 人会などの地域資源を把握して、協力していただける部分 は、協力をお願いしている。	

<u>愛媛県 はとり 平成26年8月25日</u>

22.7	<u> </u>	しょこり		平成20年8月23日
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)     ご本人、ご家族にかかりつけ医を確認して、希望の医療機関を受診していただいている。また、協力医療機関とも密に連携をとり、利用者が適切な医療を受け健康が保てるように支援している。他科受診で、ご家族の健康不良等により家族支援が受けられない場合には職員が同行することもある。     (外部評価)     月2回の往診や緊急時にも迅速に対応できるため、ほとんどの利用者は母体病院をかかりつけ医としている。専門医等は、家族の協力を得て受診しており、家族が同行できない場合は職員が受診介助もする場合もある。また、月1回歯科医の往診もある。	
		○看護職との協働	(自己評価) ホームには常勤の看護職員がおり、毎日の申し送り時に	
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の状態を報告、相談を行い適切な受診や看護が受けられるように支援している。また、かかりつけ医が協力医療機関の場合にはほぼ毎日主治医に、入居者の健康状態の申し送りを行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した際には、安心して治療ができるように、病院関係者と情報交換を行い、入院中もご家族の相談を受けている。	
			(自己評価) 入所時より、看取り介護の説明を行い、本人の状態に合わせて、重度や週末期についての相談を受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成している。利用者の亡くなる前日まで事業所で対応した経験はあるが、医療行為が必要になった時点で入院してもらった。施設長等は、「利用者の住み慣れた事業所で最期まで過ごしてほしい」という希望は持っているが、職員の精神的負担を考えると事業所で看取りをすることが100%良いとは考えていない。まず利用者が苦しまないことを優先し、家族とよく話し合い、医療行為の必要のない場合は看取りを行うことを考えている。また、事業所には家族が宿泊できるようになっている。	

<u> 22.7/</u>	<u> </u>	しょこり		平成20年8月23日
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全て の職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や、事故発生時に備えて、救急マニュアルを作成し、内部では職員ミーティングで急変時の研修を行い、毎年、職員数名ずつがAED、心肺蘇生の研修に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	(自己評価) 防火訓練、避難訓練を年2回行い、緊急災害に備えて訓練を行っている。地震水害マニュアルはいまだホーム独自の物となっていないため、引き続き修正予定である。  (外部評価) 広くゆるやかな非常階段が2か所あり、災害発生時には事業所のビル内に避難することを決めている。事業所を地域住民の避難場所として受け入れを表明しており、1週間分の食料等の備蓄を用意している。備蓄の食料は期限内に家族に試食してもらい、飲むゼリーなどの食べやすいものを選んでいる。また、防災マニュアルは作成中である。	
Г	7. そ	・ の人らしい暮らしを続けるための日々の支持	爱	
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライ バシーを損ねない言葉かけや対応をしてい る	(自己評価)     一人一人のパーソナリティに合わせて、本人のプライドを傷つけないように、言葉かけや対応を行っている。  (外部評価) 職員は言葉づかいに気をつけ、きちんと利用者と向き合い、尊重して納得してもらうよう心がけて話し合いをしている。また、施設長は利用者をごまかしたりしないことが大切だと考え、入居拒否のあった利用者と何日もかけて話し合い、納得していただいたことがある。また、帰宅願望のある利用者には、利用者の気持ちを大切に考えて、職員が付き添って自宅に帰ることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表した り、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 時間をかけてゆっくりと、本人の希望や、意思を確認して本人の気持ちに添って物事が運べるように援助している。	愛媛県社会福祉協議会 評価調査課

<u> </u>	久不	しょこり		平成20年8月23日
自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している	(自己評価) できるだけ、ご本人の時間で行動していただく様に支援している。様々な場面で本人の意思確認を行い、本人の希望により買い物や散歩、毛染めや、パーマ等に出かけ、ご自分の生活をしていただけるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができ るように支援している	(自己評価) 洋服や、アクセサリー、ヘアスタイル等本人がその人ら しいおしゃれを楽しめるように、支援している。ご本人希 望により美容室へ出かけて整髪したり施設に理容師を呼ん で散髪をしたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  献立を立てる際、利用者の好物を聞き献立に盛り込んだり行事食等を取り入れ、食事の時間が楽しみになるように工夫している。調理ができる方はほとんどいないが、下ごしらえや食器の用意、テーブルのセッティングなど職員とともに行っている。  (外部評価)  施設長は、利用者の食事の占める意義の大きさを大切に考え、利用者の希望を聞きながら管理栄養士が献立を作成し、各ユニットで職員が毎食手作りの食事を提供している。食事を手作りすることにより、調理の音や匂いなどから五感を刺激して食への期待感を膨らませてもらい、出された食事から季節を感じてほしいと考えている。利用者の食	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	重度化に伴い、特別食が必要な利用者が増えているが、食事の形状をできる限り保ち、味が混ざらないよう工夫して調理している。 (自己評価) 管理栄養士の作成するメニューで栄養バランスのとれた食事を提供している。週に何度か利用者の希望のメニューが提供できるようにしており、水分補給には利用者の状態に合わせて随時水分補給ゼリーを提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、本人のできる状態に合わせて、自力で口腔ケアを行える方は見守りを行い、義歯の洗浄や仕上げ磨きは職員が管理している。また、月に一度歯科医の往診があり、希望者は管理指導を受けて、口腔内の清潔が保持できトラブルの起こらないように支援している。	

	_	_ は <u></u>	1	一
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	(自己評価) 毎日排泄チェックを行い、排泄状態に合わせてトイレ誘導を行い、介護度が進んでもできるだけトイレで排泄できるように支援を行っている。	
10			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、しぐさ等で判断してさりげなく誘導し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。要介護5の利用者にも、排便はトイレを使用し気持ち良く排泄できるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者ごとに排便チェックを行い、排便確認を行って、 その人独自の排便パターンでスムーズな排便ができるよう、食事や飲み物、おやつなどで繊維の多いものなどを工夫し援助を行っている。	
			(自己評価) 入浴希望がある方は毎日入浴ができるように、入浴体制 をとっている。重介護を要する利用者が増加したが、利用 者の状態に合わせて、一般浴・リフト浴・特殊浴槽で対応 している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じ た入浴の支援をしている	(外部評価) 利用者毎に湯を入れ替え、週3回のペースで気持ち良く入浴できるよう努めている。利用者の希望に応じて、毎日入浴することもできる。利用者の身体能力に応じて、建物の1階にあるデイサービスや隣接する母体病院の特殊浴槽を使用して、安心安全に入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、職員が交代したり声かけや入浴時間を変更するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく 眠れるよう支援している	(自己評価) 決められた時間で利用者を縛ることなく、自分の好きな時間に休息し、入眠できるような支援を行っている。	

<u> 22.7/</u>	<u> </u>	はとり		平成26年8月25日
自己評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服 薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 常勤の看護師がおり、服薬管理、服薬指導、服薬支援を 行い症状の変化の把握を行っている。病院薬剤師と密接に 連携を行い、利用者の状態に合わせた薬剤形態にして対応 している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている	(自己評価) 利用者のできることを見極めて、それぞれに役割を持っていただき、買い物お花のお世話、テーブル拭き、新聞の読み聞かせ、書道の指導等を自主的に行っていただいている。嗜好品や個人の楽しみは、個人に合わせて行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外 に出かけられるよう支援に努めている。ま た、普段は行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の人々と協力 しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日散歩を行っている。お出かけ希望の時には、車で一緒に買い物に出かけたり、近隣の公園やスーパーに買い物に出かけたりしている。  (外部評価) 利用者の重度化に伴い、以前に比べ遠くへ出かけにくくなってきたが、毎日の散歩のほか、今治駅やタオル美術館、市民の森、仙遊寺などへドライブする機会が多い。利用者の希望に応じて、買い物や理美容室に出かけたり、吹上神社や祇園さんの夏祭りに浴衣を着て参加するなど、個別に外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを 理解しており、一人ひとりの希望や力に応 じて、お金を所持したり使えるように支援 している	(自己評価) 本人に管理能力のある方は、本人が管理している。金銭 管理が難しい方でも、本人家族の強い希望があれば、小遣 い程度を自分で所持され、買い物や、理美容代に使われて いる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をした り、手紙のやり取りができるように支援を している	(自己評価) 希望時にご家族に電話をかけることができるように支援 している。携帯電話を持っている利用者は自分の好きな時 に好きな方へ連絡できており、携帯の使用方法がわからな い時には職員が援助している。	

	外部	1&C9		<b>一                                    </b>
評価	評価	項目	実践状況	(外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって 不快や混乱をまねくような刺激(音、光、 色、広さ、温度など)がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室も、共用スペースも、季節の花を飾ったり壁面に季節の飾り付けをしたりして居心地良く、また食事の時には軽音楽をながし居心地の良いように配慮している。  (外部評価) オープンキッチンとリビングを取り囲むように居室が配置され、共用空間には花や野菜を職員が当番で飾るなど、利用者が季節感を感じられる和やかな雰囲気となっている。また、七夕の壁飾りや折り紙で作った紫陽花などが飾られ、利用者に季節感を感じられるよう工夫している。目の不自由な利用者にも触れるものや香りのいいものなどを楽しんでもらえるよう工夫している。	
53		<ul><li>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</li><li>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</li></ul>	(自己評価) なじみの人たちがゆっくり話せるように、共用空間にソファを置きくつろげるようにしている。一人になりたいときにはフロアーに一つ畳の間を用意し、ご家族と他の方に聞かれたくない相談がある時には、相談室も用意している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族 と相談しながら、使い慣れたものや好みの ものを活かして、本人が居心地よく過ごせ るような工夫をしている	(自己評価) 居室は、利用者の好みに応じた飾りもの、使い慣れた家具、人形などを持ち込み、本人が自宅と変わらない生活ができるように支援している。  (外部評価) 居室はベッドとタンスが備え付けられている。居室には使いなれた馴染みの家具を持ち込んでもらい、利用者に合わせたレイアウトで居心地の良い空間づくりをしている。利用者自身で作った作品や家族の写真など飾っている利用者もいる。また、衣類は季節ごとに家族に協力してもらい入れ替えをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工夫し ている	(自己評価)     一人一人が安全に暮らせるように、わかりやすく使いやすいように、エレベーターのボタン、トイレの洗浄ボタンをユニバーサルデザインにしている。閉め忘れが多い手洗いは自動物を使用している。	